

世界で広がるBLM運動

(Black Lives Matter)
ブラック ライブズ マター

この言葉が広まったのは、2012年アメリカ南部フロリダ州で黒人の少年が自警団の男に射殺された事件がきっかけです。翌年、自警団の男に無罪評決が出たことに抗議した黒人女性がSNSで「Black lives matter」を含む文章を投稿し、友人の女性がハッシュタグをつけて世界に拡散しました。当時は日本国内ではあまり注目を浴びず、日本語訳をめぐる論争には至りませんでした。

昨年5月、アメリカミネソタ州で、白人警官による黒人の暴行死が起こりました。9分近くも膝で首を踏まれたフロイドさんの動画は世界へ拡散し、世界各地で抗議や暴動が拡大・激化しました。

日本でも大坂なおみ選手が、黒人犠牲者の名前が記されたマスクを着用して抗議を行いました。しかし、メディアでは、「暴動」や「デモ」など激しい抗議活動の場面ばかりが取り上げられ、日本では背景にある差別構造が理解されにくく、批判もあります。

今回の事件は「ひとつの事件」ではありません。毎年同じような事件が数多く発生しています。この問題は400年前から続いているのです。この抗議の背景や歴史を正しく知るための映画を紹介します。

奴隷制度を理解する

「それでも夜は明ける」 134分 (2013年 イギリス・アメリカ)

自由黒人でありながら拉致され、奴隷として南部の農園に売られたソロモン・ノーサップが12年間の壮絶な奴隷生活を綴った体験記が原作。いったん奴隷となった者が非人道的な状態で、どれだけ残虐な暴力にさらされ、どんな屈辱に耐えたかということがわかる作品。

公民権運動時代を知る

「ヘルプ〜心がつなぐストーリー〜」 146分 (2011年 アメリカ)

1960年代の公民権運動を背景に、ミシシッピ州に住む若い白人女性と黒人メイドたちの関係が、差別の横行する田舎街に変化をもたらしていく物語。

当時のアメリカ南部における日常の随所にちりばめられた差別や当時の暮らしを知ることができます。

スパイク・リー監督作品を見る

「ブラック・クランズマン」 136分 (2018年 アメリカ)

1979年の実話に基づいた物語で、黒人警官とユダヤ人刑事が共に、白人至上主義団体(KKK)に潜入捜査し、活動内容や極秘計画を暴く。映画のエンディングでは、2017年のシャーロットビル事件(白人至上主義団体と反対派が衝突した事件)の実映像が流れ、「過去の差別が現在にもなお続いている」という強烈なメッセージを送っています。

繰り返される歴史

「フルートベール駅で」 85分 (2013年 アメリカ)

ごく普通の若者の日常が突然惨劇に代わった事件を元に映画化した事実に基づく作品。このような恐怖が常に生活と隣り合わせにあるという異常な状況が存在するというのがわかります。また、一人の人間の死がいかに悲しく、どれほど周囲の人を傷つけるものであるか、そして、一人の人間の命がいかに重く尊いものなのかを感じさせられます。

「誰か」のことじゃない

法務省 令和2年度人権啓発キャッチコピー 最優秀賞

どこかで何かが起こっていても、どこか他人事。

どこか遠い国の出来事や昔の話ではなく、今、自分の周りでどんな差別や人権侵害が起こっているか考えてみませんか。

差別は無意識、無知から起こってしまいます。「自分には関係ない」という意識を変え、自分自身の特権や、周りへの振る舞いについてあらためて考えてみましょう。

